

忌憚ない批判と提言を

朝日新聞社社長
木村伊量

朝日新聞の慰安婦報道について検証する第三者委員会が9日、開かれました。初会合に先立ち、朝日新聞社の木村伊量社長が委員のみなさんに経緯を説明し、徹底した検証とそれを踏まえた提言を委嘱しました。

朝日新聞は8月5、6日付で特集「慰安婦問題を考える」を掲載しました。その中で韓国・済州島で慰安婦を強制連行したとする吉田清治氏の証言を虚偽と判断し、その証言に基づく記事を取り消しました。

しかし、記事を取り消しながら謝罪の言葉がなかったことにご批判が集まりました。また、記事を取り消すまでになぜこれほどの時

間がかかったのかについて、説明が足りないといふ批判をいただきました。

私は9月11日の記者会見で、これらの点について謝罪し、朝日新聞の慰安婦報道に関して検証する第三者委員会を設けることを明らかにしました。

みなさまにはご多忙にもかかわらず、委員をお引き受け頂きまして誠にありがとうございます。朝日新聞

社として委員のみなさまに検証していただきたいのは次の各点です。

①吉田証言をはじめとする慰安婦に関する過去の記事の作成、今回の記事取り消しに至る経緯。とくに1997年3月に掲載した検証記事では吉田証言に関する記事の訂正・取り消しに至らず、その後、今回の取り消しまで長い時間がかかった理由

②今年8月5、6日付朝刊に掲載した特集紙面「慰安婦問題を考える」の評価、および池上彰さんのコラム掲載をいったん見送った問題など、その後の対応

③日韓関係をはじめ国際社会に対する慰安婦報道の影響

④その他、上記に関連する事項

委員会の調査には全面的

に協力します。委員のみなさまには検証結果を踏まえて、いかなる前提もつけず、忌憚のない批判、ご意見、具体的な提言を賜りたいと切望しております。中込秀樹委員長からは2カ月程度をめどに、ご提言をまとめていただく意向とかがっております。

朝日新聞が信頼を取り戻し、ジャーナリズムとしての責務を今後も果たしていくためにも、厳しく、かつ前向きなご議論をしていただくようお願い申し上げます。

調査尽くし責務果たす

この第三者委員会は朝日新聞の慰安婦報道に関して検証を行います。

具体的には、吉田清治氏の証言内容を報じた記事が作成され、掲載された経緯▽その後の検証記事で吉田氏の証言が誤りだとはされず、本年8月5、6日に掲載された特集紙面「慰安婦問題どう伝えたいか」で取り消されるまで長い期間を要した理由や経緯▽同特集紙面の評価▽

中込委員長のあいさつ

池上彰氏のコラムがいったん掲載を見送られた経緯と、その後の対応▽日韓関係をはじめとする国際社会に対する慰安婦報道の影響▽これらに関する朝日新聞社の意思決定の経緯——など多面にわたります。

こうした点を検証し、問題があれば指摘します。そして朝日新聞社がその問題にきちんと対処し、さらに同様の問題を今後発生させないようにするために

は、社内の体制を含めてどう変革することが必要であるかを提言します。場合によっては、新聞社自身が解体して出直せ、ということにもなるかもしれません。

今回の問題は世論から注目を集めています。委員会ではできるだけ早く結果を示すことが社会的にも求められています。検証には少なくとも2カ月が必要ですが、一方で、それより早くかかっては社会的な要請に応えられません。委員のみなさま方にお諮りすることなく、報告書提出までとあらかじめ2カ月という

期間を一応設けたのは、そのように考えたためです。

期間内でできるだけ調査を尽くして、結論を出して、責務を果たそうと思っています。

なお本日の第1回委員会の冒頭部分は公開しましたが、これ以後の委員会の審議は非公開で行い、メディアのみなさまには報告書の公表に至るまで委員に対する取材はひかえていただくようお願いいたします。そうしていただかないと客観的で公正かつ冷静な審議が期待できないと思うためです。ご協力をよろしくお願いいたします。

中込秀樹氏 元名古屋高裁長官、弁護士＝委員長
岡本行夫氏 外交評論家
北岡伸一氏 国際大学学長
田原総一朗氏 ジャーナリスト
波多野澄雄氏 筑波大学名誉教授
林香里氏 東京大学大学院情報学環教授
保阪正康氏 ノンフィクション作家

慰安婦の強制連行に関する吉田清治氏の発言などを取り上げた本紙記事

掲載日	見出し	記事の内容
1982年 9月2日朝刊 (大阪本社版)	朝鮮の女性 私も連行 暴行加え無理やり	大阪市内であった集会で吉田氏が行った講演内容をまとめた。吉田氏は、直接指揮して日本に強制連行した朝鮮人は約6千人、うち950人が慰安婦だった、と説明した
83年 10月19日夕刊	韓国の丘に謝罪の碑 「徴用の鬼」いま建立	6千人の朝鮮人を日本に強制連行し「徴用の鬼」と呼ばれた、と吉田氏を紹介。田んぼや工場、結婚式場にまで踏み込んで若者たちを手当たり次第に駆り立てた、などと活動を説明している
83年 11月10日朝刊	ひと 吉田清治さん	「国家による人狩り、としかいいようのない徴用が、わずか三十数年で、歴史のヤミに葬られようとしている」などの吉田氏の発言をとり上げた
83年 12月24日朝刊	たった一人の謝罪 韓 国で「碑」除幕式	吉田氏が韓国に建てた「謝罪の碑」の除幕式の様子を報じた。「私は戦前数多くのあなた方を強制連行した張本人」などの発言を紹介
86年 7月9日朝刊	アジアの戦争犠牲者を 追悼 8月15日、タイ と大阪で集会	吉田氏について、慰安婦を含む朝鮮人の強制連行の指揮に当たったと言及している
90年 6月19日朝刊 (大阪本社版)	名簿を私は焼いた 知 事の命令で証拠隠滅	「多くの朝鮮人女性を従軍慰安婦として連れ去ったこともあります。当時の私は、徴用の鬼、といわれて誇りに思っていました」と吉田氏の発言を記載
91年 10月10日朝刊 (大阪本社版)	女たちの太平洋戦争 従軍慰安婦	吉田氏のインタビュー記事。慰安婦を強制連行したとして、「若い母親の手をねじ上げ、けったり殴ったりして護送車に乗せるのです」などと語っていた
92年 1月23日夕刊	窓 論説委員室から 従軍慰安婦	「(慰安婦を)戦場に運び、1年2年と監禁し、集団強姦(ごうかん)し、そして日本軍が退却する時には戦場に放置した」などと吉田氏の発言を紹介
92年 3月3日夕刊	窓 論説委員室から 歴史のために	吉田氏の告白に多くの投書が来たことに触れ、日本軍の残虐行為を否定する意見を紹介。知りたくない、信じたくないことがある。だが、その思いと格闘しないことには、歴史は残せない、と結んだ
92年 5月24日朝刊	今こそ 自ら謝りたい 連行の証言者、7月 訪韓	吉田氏が韓国に謝罪の旅に出ることを報じた。「残虐行為に直接かかわった日本人が謝罪に来た、という歴史を残したい」との発言にも触れた
92年 8月13日朝刊	元慰安婦に謝罪 ソウ ルで吉田さん	吉田氏が韓国で元慰安婦に謝罪した様子を報じた
94年 1月25日朝刊	政治動かし調査報道 戦後補償 忘れられ た人達に光	朝鮮に渡って強制的に慰安婦を送り出した元動員部長の証言に、読者から驚きの電話が何十本も届いた、と吉田氏を匿名で紹介

吉田清治氏の関連記事12本

見出しと概要 お知らせします

朝日新聞社は8月5日の特集「慰安婦問題を考える」で、山口県労務報国会傘下関支部動員部長だったと語っていた吉田清治氏(故人)が韓国・済州島で慰安婦を強制連行したとする証言を虚偽だと判断し、過去の記事を取り消しました。

この際、「吉田氏について確認できただけで16回、記事にした」と報じました。リストの公表方法を検討してきましたが、今回、本紙記者が書いた12本について掲載日、見出し、概要をお知らせすることになりました。外部の方々がお書きになった3本と、著作物の引用が多い1本は公表を見合わせま

16本の記事は第三者委員会に提出しています。

「慰安婦問題を考える」で、山を、おわびします。外部の方が書かれたのは「声」欄への投稿、「論壇」への寄稿、私の紙面批評への寄稿が1本ずつです。「論壇」「紙面批評」を書かれた方々からは公表の了解を頂きましたが、吉田氏に関する記述が朝日新聞やテレビの報道の引用であることなどを考慮し、非公表が適当と判断しました。もう1本は記者が書いた記事ですが、編者である団体名が記載されていることなどから公表は見合わせました。

記者のほか社内外で聞き取りへ

第三者委員会の第1回会合終了後、中込秀樹委員長が報道陣の取材に応じた。初会合では、各委員が朝日新聞の過去の慰安婦報道についての持論を披露。委員からは「朝日は都合のいい事実だけ拾って報道し、都合の悪いものは無視する体質だ」「それは一般的な新聞社の体質だ」などの指摘があったという。

事実関係の検証を進めるため、委員会で関係者の聞き取りを実施するという。対象は「記事を書いた記者」のほか、社内外、外国も視野に入れて検討する。進め方などの詳細は、次回以降の会合で決める予定。「委員は多忙。集まる回数は限られている」として、会合以外でもメールなどで議論を進める。次回以降は日程を含めて非公開だが、「場合によっては(報告書がまとまる前に経過を)お知らせする可能性がある」と話した。

報道陣からは、慰安婦問題の専門家が委員にいないとの指摘もあがった。中込委員長は「意図的に排除したわけではない」と説明。現代史家の秦郁彦氏の名前を挙げ「委員からぜひ意見を聞きたい」と声があがった。じっくり聞いて(検証に)反映したい」と話した。